

## マイブウ・メーノス (まあーまあー)の世界 ブラジル

ブラジルを訪問する人、ブラジルに関心のある人にお勧めする！！

梅津久 記

### 第11話一躰

家の前の軒下、歩道しいては、道端まで毎日水をまいて掃除するのは、私たち日本人には幼い時から記憶に刻まれた光景であり、日本の情緒ある光景でもある。それが子に孫にと引き継がれた日本の習慣である。ところがここブラジルでは、それが全くない、家の中は我々東洋人にはまねが出来ないぐらいキチンときれいにするのだが、家の外、特に公共の場となるとまったくおかまいなし、それどころか逆にゴミをポンポンとほうり出して汚くしてしまう、だれかが掃除するだろう、掃除するのは市の清掃局の仕事と完全に割り切っている。住宅街にある私の家の前も車がゆうゆうと行き交えるほどの幅のある道であるが、とてもおもしろいことがある。この道のちょうど私の家と向えの家の所と両側に排水溝がある、向かえの家は3年程前に改築手直しをしてきれいにし、歩道のところまでタイルを貼ってきれいにしたまでは良いが、その家の庭に大きな木があり、毎日のように木の葉が舞い降りそれが雨で排水溝の網に引っ掛かり、雨水が通りにくくなり、道が水浸しになる、それが何回も続くと水はどす黒くなってとても汚くなり、車が通るとその水がその家の塀に跳ね返り塀が汚くなる、それでも何週間もほったらかしにし、市の清掃局の人が掃除にくるまでほっておく。もっとひどいのは、その家は自分の家から出るゴミを歩道にある私の家のゴミ置きに平気で置いて行く、生ごみが置かれた時は大変である。

こんなであるから、会社での躰を指導するのは非常に大変である。“5S活動”を導入している企業が多いが、5Sである清掃、整理、整頓、清潔、躰のいずれにしても、ブラジルにはない習慣なので一つ一つ例を元に教いるのが大変である。極端な例で笑うに笑えない話であるが、1984年にマナウスに来て始めて従業員を採用し、仕事を始めた時、毎日、便器の上が靴の跡で汚れていた、良く話を聞いたら、便器の上に上がって用事を済ましていることが分り、トイレの使い方までお教えしなければならなかった。

反面ブラジル人の家の中に入ると驚くほどきちんと飾られ整理されている。まず日本人の家には物が多過ぎる、古いものでも、今使わない物でも「いつか使うかもしれない」でしまっておく物が非常に多く、タンスや引き出しの上、部屋の隅々に山積みにして置いてあり、部屋の壁が見えなくなっていることが多い。また一般に装飾がへたであり、飾り物を玄間の靴箱や茶箆笥の上に無造作に置いてあるのが普通である。反面、ブラジル人の家はどんな貧しい家を訪問してもシンプレスに無駄のない様にスッキリ・キチンと整理されている。家庭に関しては、ブラジルの方が清掃、整理、整頓できているのかもしれない。日本での四畳半で座っても寝ても手を伸ばせば何でも届く生活

習慣などとても哀れで悲しくなるほどである。

2014年にブラジルで開催されたサッカー世界選手権(ワールドカップ)では、競技場で日本人サポーターが試合終了後、自分達の応援席のゴミを拾いゴミ袋に入れ綺麗に掃除し競技場を後にする行動がブラジル国内で大きな話題となり幾度となくテレビで放映された。それがきっかけで、日本での小学校で生徒達が自分達の教室やトイレを自分達で掃除する様子が同時に紹介され“これが日本の躰、美”と称賛された。しかし、ブラジルでこんな事を生徒に強制したら「子供を奴隷、女中、掃除婦のようなことをさせて！」と父兄達から即反発を受け大きな問題となってしまうだろう。

ピシャンソと言われる街の中の落書きもひどい、若者達が街中の塀、建物の壁すべてに、記号とも文字ともわからない落書きを塗装スプレーでする。よくもこんな高い所、難しい所に書けるものだと驚く所にまで競え合って書かれている。新しく塗装された壁、新しい建物、公共施設、記念塔などまでが被害にあっている、特にサンパウロ市はひどく、“落書きアルテ”と呼ばれ悪化をたどっている、マナウスから行くと街が非常に汚く見える。このような“ピシャドーレス”を取り締まる方法も法律もなく、十数年もの間放ったままになっている。

日本でも奇抜なトイレの落書きに「キミはいま、人類の未来を握っている」、「アノ部分には、人類の未来が秘められている」とか、“一步前進”はあまり素っ気ないが「男ならじっと突き出せ筒先を、後へ引くとは卑怯千萬」などがある。

一次回 第12話へ続くー